



愛媛大学沿岸環境科学研究センター  
共同利用・共同研究拠点「化学汚染・沿岸環境研究拠点」  
2021年度 共同研究公募要項

愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下、センター）では、センター設置の生物環境試料用質量分析装置や調査実習船いさな、また世界各地から採取した生物環境試料を凍結保存した「生物環境試料バンク（es-BANK）」などを利活用し環境科学分野の共同研究を推進するため、共同利用・共同研究拠点「化学汚染・沿岸環境研究拠点」（以下、拠点）を運営しています。本拠点では、国内外の関連研究者との共働による環境科学の発展を目指し、下記の通り、2021年度の共同利用・共同研究・研究集会（以下、共同研究）を募集します。なお、採択件数によっては追加募集することもあります。

## 1. 公募種目

以下のA, B, C, Dのいずれの種目においても、環境科学および関連分野における申請者の自由な発想に基づく課題を募集します。ただし、愛媛大学外の関連研究者ならびに拠点構成員が研究組織に含まれていることを条件とします（代表者・分担者の別は問いません）

### A. 設備利用型共同研究

センター設置の生物環境試料用質量分析装置や調査実習船いさな等を利用した共同研究。共同利用機器の詳細は「16. 共同利用機器リスト」をご覧ください。

### B. 生物環境試料バンク（es-BANK）利用型共同研究

生物環境試料バンクに凍結保存されている試料の利用を主とした共同研究。以下のテーマを含みます。

- ・生物環境試料の提供による共同研究
- ・試料の分析・解析を通じた共同研究

共同研究ではなく、生物環境試料バンクの保存試料の提供のみを希望される方は、「生物環境試料バンク(es-BANK)試料譲渡」に申し込みください。

### C. 一般共同研究

上記 A, B 以外の共同研究

### D. セミナー・研究集会

セミナー・研究集会・報告会の開催。1 件あたり最大 50 万円を限度とし補助します。センター外での開催も可能ですがその必要性を申請書に記載して下さい。また、国内外の関連研究者・学生の研究技術向上を目的とする、講義・実地実習を組み合わせた研修会のような集会も申請可能です。

## 2. 研究期間

研究期間は 2021 年 4 月 1 日から 2022 年 2 月 28 日までとします。

## 3. 申請・参加資格

国内外の大学・研究機関・民間企業に属する研究者またはそれに準じる者（大学院生および 6 年制大学の 5-6 年生を含む）。またそれ以外において、拠点長ならびに共同利用・共同研究拠点協議会（以下、協議会）で認められた者。

大学院生に関しては以下 2 点を条件とします。

- 1) 申請代表者になる場合は、その指導教員も研究分担者として参画し、指導教員承認書（様式 2）を提出すること。
- 2) 研究分担者になる場合は、別紙の指導教員承認書（様式 2）を提出すること。

## 4. 経費

上記種目における採択課題に対して、旅費・滞在費（研究補助者も含む）を支給致します。また、種目 A・B・C に対しては消耗品費などを、また、種目 D に関しては集会開催場所の賃料や集会予稿集・報告集の印刷製本費、参加者旅費などを、研究組織内の拠点構成員に対して配分します。ただし、全体予算の都合により調整させて頂く場合があります。

## 5. 応募方法

15. に示す拠点構成員とあらかじめ打合せを行った上で、別紙申請書（様式 1）に必要事項を記載の上、以下の提出先まで Email 添付でご送付下さい。

## 6. 応募締切

2021 年 1 月 29 日（金）

## 7. 申請書提出先および問合せ先

申請書提出先: lamer@stu.ehime-u.ac.jp

問い合わせ先: 〒790-8577 愛媛県松山市文京町 2-5  
化学汚染・沿岸環境研究拠点事務室  
Tel: 089-927-8187

## 8. 選考

協議会において、申請内容（課題の必要性・独創性、実現可能性など）を総合的に審議の上選考致します。

## 9. 採否連絡

上記協議会での審議終了後、4月上旬に申請代表者にご連絡致します。

## 10. 成果発表

本共同研究による研究成果や研究集会の内容を公表する場合、本共同研究の成果である旨を附記して下さい。また、公表された印刷物（論文・学会予稿など）の別刷り（電子媒体も可）を上記7までご送付下さい。

謝辞の例。"This study was supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Japan (MEXT) to a project on Joint Usage/Research Center- Leading Academia in Marine and Environment Pollution Research (LaMer)"

## 11. 成果・集会の報告

申請代表者は、2022年2月28日までに、当該年度の研究成果・研究集会の報告を行って下さい。様式は別紙（様式3）の通りで提出先は上記7です。なお、共同研究報告書は印刷・公表する予定です。

（特許出願または出願予定などのため、成果の公表を一時見合わせる必要が有る場合はその旨をご連絡下さい）

## 12. 知的財産権について

本共同研究によって知的財産が創出された場合、当該共同研究組織の所属機関の知財担当部署間で出願可否・手続き・権利などの協議を行います。

## 13. 動物実験や遺伝子実験等に係わる法的手続きについて

動物実験や遺伝子実験等に係わる法的手続きは申請者が適宜行ってください。

#### 14. 安全保障貿易管理について

研究組織に国外研究者が含まれる場合、当該研究者所属国ならびに当該共同研究課題内容を勘案し、必要に応じて、外為法（外国為替及び外国貿易法）に基づく該非判定のための誓約書などの提出を求める場合があります。

#### 15. 愛媛大学化学汚染・沿岸環境研究拠点構成員名簿（2020年11月1日）

メールアドレス \*\*\*\*\*@ehime-u.ac.jp

拠点長	岩田 久人	iwata.hisato.mz
環境動態解析部門		
教授	郭 新宇	guo.xinyu.mz
教授	森本 昭彦	morimoto.akihiro.cl
教授*	武岡 英隆	takeoka.hidetaka.mx
教授*	日向 博文	hinata.hirofumi.dv
准教授	加 三千宣	kuwae.michinobu.mc
講師	吉江 直樹	yoshie.naoki.mm
化学汚染・毒性解析部門		
教授	田辺 信介	tanabe.shinsuke.my
教授	岩田 久人	iwata.hisato.mz
教授	国末 達也	kunisue.tatsuya.ew
教授*	高橋 真	takahashi.shin.mu
准教授	野見山 桂	nomiyama.kei.mb
准教授*	石橋 弘志	ishibashi.hiroshi.wy
准教授*	水川 葉月	mizukawa.hazuki.jg
講師	仲山 慶	nakayama.kei.mj
助教	田上 瑠美	tanoue.rumi.lw
特任助教	落合 真理	ochiai.mari.vb
生態系解析部門		
教授	鈴木 聡	suzuki.satoru.mb
教授	渡辺 幸三	watanabe.kozo.mj
教授*	大森 浩二	omori.koji.mj
教授*	渡辺 誠也	watanabe.seiya.my
准教授	北村 真一	kitamura.shinichi.mx
准教授*	三宅 洋	miyake.yo.mm
講師	大林由美子	obayashi.yumiko.nn
特任助教	鈴木 康嗣	suzuki.yasutsugu.ao

\*：兼任教員

## 16. 共同利用機器

## 共同利用機器一覧

機器名	担当部門・担当者
調査実習船いさな	環境動態・森本昭彦
自律型採水システム（調査実習船いさな付属機器）	環境動態・吉江直樹
計量魚群探知機システム（調査実習船いさな付属機器）	環境動態・吉江直樹
船底設置型超音波多層流速計（調査実習船いさな付属機器）	環境動態・森本昭彦
遠隔操作水中ロボットシステム	環境動態・吉江直樹
海底設置型超音波多層流速計	環境動態・森本昭彦
水中紫外線硝酸塩アナライザー	環境動態・吉江直樹
ガンマ線測定システム	環境動態・加三千宣
二次元ガスクロマトグラフ飛行時間型質量分析装置	化学汚染・毒性・国末達也
ガスクロマトグラフ質量分析装置	化学汚染・毒性・国末達也
ガスクロマトグラフ二重収束型高分解能質量分析装置	化学汚染・毒性・野見山桂
高速液体クロマトグラフトンデム質量分析装置	化学汚染・毒性・野見山桂
誘導結合プラズマ質量分析装置	化学汚染・毒性・国末達也
マトリックス支援レーザー脱離イオン化-飛行時間型質量分析装置	化学汚染・毒性・岩田久人
バイオハザード対策用クリーンベンチ	生態系解析・鈴木聡
グレーティングマルチマイクロプレートリーダー	生態系解析・大林由美子
無菌培養室	生態系解析・北村真一